

アジア・アフリカ学術基盤形成事業 平成 21 年度 実施計画書

1. 拠点機関

日本側拠点機関：	名古屋大学大学院文学研究科
(カメルーン) 拠点機関：	ヤウンデ大学 I
(マリ) 拠点機関：	バマコ大学
(セネガル) 拠点機関：	シェイク・アンタ・ディオップ大学
(タンザニア) 拠点機関：	ダルエスサラーム大学

2. 研究交流課題名

(和文)：伝統的生活様式の崩壊と再宗教化をめぐる現代アフリカにおける宗教動態

(交流分野：文化人類学)

(英文)：Religious Dynamics of Contemporary Africa concerning the destruction of Traditional Life Mode and New Religious Movement

(交流分野：Cultural Anthropology)

研究交流課題に係るホームページ：<http://islamken.net/default.htm>

3. 採用年度

平成 21 年度 (1 年度目)

4. 実施体制

日本側実施組織

拠点機関：名古屋大学大学院文学研究科

実施組織代表者 (所属部局・職・氏名)：

名古屋大学大学院文学研究科・研究科長・和田壽弘

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：

名古屋大学大学院文学研究科・教授・嶋田義仁

協力機関：

事務組織：研究協力部研究支援課、文系事務部経理課

相手国 (地域) 側実施組織 (拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。)

(1) 国 (地域) 名：カメルーン

拠点機関：(英文) University of Yaoundé I

(和文) ヤウンデ第一大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：(英文) Faculty of Arts, Letters and Human Sciences ・ Associate professor ・ Saibou Nassourou

協力機関：(英文) University of Ngaoundéré
(和文) ガウンデレ大学

(英文) University of Maroua
(和文) マルア大学

(2) 国(地域)名： マリ

拠点機関：(英文) University of Bamako
(和文) バマコ大学

コーディネーター(所属部局・職・氏名)：(英文) Faculty of Languages, Arts and Human Sciences (FLASH)・Professor・Samba Djiallo

協力機関：(英文)
(和文)

(3) 国(地域)名： タンザニア

拠点機関：(英文) University of Dar es Salaam
(和文) ダルエスサラーム大学

コーディネーター(所属部局・職・氏名)：(英文) Institute of Swahili・Professor・John G.Kiango

協力機関：(英文)
(和文)

(4) 国(地域)名： セネガル

拠点機関：(英文) Cheikh Anta Diop University
(和文) シェイク・アンタ・ディオップ大学

コーディネーター(所属部局・職・氏名)：(英文) Fundamental Institute of Black Africa (IFAN)・Professor・Abdou Salam Fall

協力機関：(英文)
(和文)

5. 全期間を通じた研究交流目標

「伝統的生活様式の崩壊と再宗教化をめぐる現代アフリカにおける宗教動態」をテーマに、日本側拠点機関に属する研究者とアフリカ拠点機関に属する研究者とのあいだで、共同研究・研究者交流、セミナー等の学術交流をおこない、共同研究を推進する。そのために、おもに以下のことをおこなう。

1. 日本側拠点機関に属する研究者とアフリカ拠点機関との間で、研究情報を共有するインターネット・ネットワークを構築する。
2. アフリカ拠点機関に眠っている修士論文、博士論文、未刊論文などを共通して利用できるデータ・ベースを構築する

3. 研究成果は電子ジャーナル *Religious Dynamics in Africa* と簡易印刷でも公刊する。
4. 日本人若手研究者のみならずアフリカ人若手研究者の育成を、アフリカと日本の共同指導によっておこなう。そのために、民間財団資金や国費留学生制度を利用して、日本人大学院生のアフリカの大学への留学、アフリカ人大学院生の名古屋大学への留学を推進する。
5. 研究は、3 テーマ「アフリカ・イスラームの動態」「アフリカの都市化とグローバル化の中での宗教動態」「伝統価値の崩壊と青少年・教育問題と宗教」を柱にしてすすめる。

6. 前年度までの研究交流活動による目標達成状況

平成 21 年度から開始

7. 平成 21 年度研究交流目標

1. 「伝統的生活様式の崩壊と再宗教化をめぐる現代アフリカにおける宗教動態」という共同研究テーマの趣旨を、次の 3 点において、アフリカ側共同研究者に正しく理解してもらい、共通理解を確立する。

- ① この数十年のアフリカの著しい変貌による伝統的生活様式・伝統的価値の崩壊にもなう精神的危機の存在。
- ② それにともなう「再宗教化」。
- ③ 経済開発一辺倒でアフリカ問題を解決することの限界。

2. また、この研究を、3 テーマ「アフリカ・イスラームの動態」「アフリカの都市化とグローバル化の中での宗教動態」「伝統価値の崩壊と青少年・教育問題と宗教」を柱にしてすすめることに対する互いの共通理解を確立し、そのための戦略チーム形成をおこなう。

3. 同時に、3 年間の研究交流の具体的なロード・マップの確認をおこなう。特に重要なのが「拠点間のネットワークの構築」と「若手研究者の人材育成」である。事前にメールやホームページを通じて各国拠点機関と意見交換をする。日本人研究者をマリとカメルーンに派遣し綿密な意思疎通をはかる。さらに別経費を利用した他国への派遣も予定している。以上の準備をしたうえで、名古屋大学で開催されるセミナーに各国拠点機関の研究者を招き具体案を定める。

4. 「伝統的生活様式の崩壊と再宗教化をめぐる現代アフリカにおける宗教動態」をめぐる国際共同研究の意義をあきらかにし、アジア・アフリカ学術基盤形成事業が名古屋大学大学院文学研究科を拠点に開始されたことを内外に明らかにする。

8. 平成 21 年度研究交流計画概要

8-1 共同研究

「伝統的生活様式の崩壊と再宗教化をめぐる現代アフリカにおける宗教動態」を共同研究全体のテーマとするが、さらに次の 3 研究テーマについて研究班を構成し、共同研究をおこなう。ただし、本年の国際共同研究は共同でおこなう。

- ① 「アフリカ・イスラームの動態」班 責任者 嶋田義仁・文学研究科教授 アフリカ・

イスラームのさまざまな動態を、グローバル化、都市化、AU 形成、イラクやアフガンでの戦争との関連であきらかにする。

②「アフリカの都市化とグローバル化の中での宗教動態」班 責任者 和崎春日・文学研究科教授（4月より中部大学・国際関係学部・教授） グローバル化の中で日本をはじめアフリカ人の海外進出が激化している。その中でどのような宗教動態が見られるかを明らかにする。本年は特に日本を中心にアジアへの進出の事例を研究する。

③「伝統価値の崩壊と青少年・教育問題と宗教」班 責任者 佐々木重洋・文学研究科准教授 伝統価値の崩壊のなかでアフリカにいかなる青少年問題と教育問題が生じ、それに宗教がどのように関与しているかを、研究メンバーの事例報告をつうじて明らかにする。

本年はカメルーンの研究者 2 名と、タンザニア、マリからの研究者それぞれ 1 名を、延べ合計 48 日名古屋に招き、共同研究をおこなうとともにセミナーもおこなう。（別途資金のめどがつけばセネガル研究者も招聘する）。

2 名の日本側研究者をアフリカ拠点研究機関に派遣、共同研究・研究者交流をおこなう。

こうした共同研究を通じて次のような研究インフラの形成をはかる

①共同研究成果（Religious Dynamics in Africa）とデータ・ベースを公表するホームページの開設。

②拠点間のネットワークの構築：拠点間ネットワークはインターネットにより結ばれる。各国拠点研究者がホームページ上で議論・意見交換ができるシステムを構築する。システム（投稿方法やアクセス権の有無、多言語への対応など）の詳細は、拠点研究者が一堂に会するセミナーにおいて決定する。

③若手研究者の人材育成：日本及びアフリカの若手研究者を共同研究に積極的に参加させる。その実施のための実務にも若手研究者を登用し、研究マネジメントの取得もはかる。若手研究者の研究成果公表の場を Religious Dynamics in Africa に設ける。以上により調査研究、成果発表、研究マネジメントの能力にたけた若手研究者の人材育成をはかる。

8-2 セミナー

セミナー 「伝統的生活様式の崩壊と再宗教化をめぐる現代アフリカにおける宗教動態」をテーマに拠点機関研究者との合同共同セミナーを一回開催する。

拠点大学の研究者 5 名を名古屋に招きセミナーを開催（1 名分費用は別途資金を予定）

8-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

予定なし。

9. 平成21年度研究交流計画総人数・人日数

9-1 相手国との交流計画

派遣先 派遣元	日本 〈人/人日〉	カメルーン 〈人/人日〉	マリ 〈人/人日〉	セネガル 〈人/人日〉	タンザニア 〈人/人日〉	合計 〈人/人日〉
日本 〈人/人日〉		1/20	1/20			2/40
カメルーン 〈人/人日〉	2/30					2/30
マリ 〈人/人日〉	1/9					1/9
セネガル 〈人/人日〉	(1/3)					(1/3)
タンザニア 〈人/人日〉	1/9					1/9
合計 〈人/人日〉	4/48 (1/3)	1/20	1/20			6/88 (1/3)

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流する人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。(合計欄は()をのぞいた人・日数としてください。)

9-2 国内での交流計画

20/35 〈人/人日〉

10. 平成21年度研究交流計画状況

10-1 共同研究

—研究課題ごとに作成してください。—

整理番号	R-1	研究開始年度	平成 21	研究終了年度	平成 23	
研究課題名	(和文) 伝統的生活様式の崩壊と再宗教化をめぐる現代アフリカにおける宗教動態 (英文) Religious Dynamics of Contemporary Africa concerning the destruction of Traditional Life Mode and New Religious Movement					
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) 名古屋大学大学院文学研究科・教授・嶋田義仁 (英文) Graduate School of letters Nagoya University. Professor. Dr. Shimada Yoshihito					
相手国側代表者 氏名・所属・職	Mali : Dr. Samba Djallo, University of Bamako, Flashe ; Professor Cameroun: Dr. Saibou Nassourou, University of Yaoundé I, Associate professor Tanzania : Dr. John G.Kiango, University of Dar es Salaam, Insitute of Swahili, Senegal : Dr. Abdou Salam Fall, University of Cheikh Anta Diop, Fundamental Institute of Black Africa (IFAN)・Professor・					
交流予定人数 (※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入のこと。)	① 相手国との交流					
	派遣先 派遣元	日本 〈人/人日〉	カメルーン 〈人/人日〉	タンザニア 〈人/人日〉	マリ 〈人/人日〉	計 〈人/人日〉
	日本 〈人/人日〉		1/20		1/20	2/40
	カメルーン 〈人/人日〉	2/30				2/30
	タンザニア 〈人/人日〉	1/9				1/9
	マリ 〈人/人日〉	1/9				1/9
	合計 〈人/人日〉	4/48	1/20		1/20	6/88
21年度の研究 交流活動計画及 び期待される成 果	本交流計画は3研究班にわかれているが、本年は初年度あたるため、国際交流活動は、共同でおこない、共通研究課題とこの研究課題を3テーマ「アフリカ・イスラームの動態」「アフリカの都市化とグローバル化の中での宗教動態」「伝統価値の崩壊と青少年・教育問題と宗教」を柱にしてすすめることに対する互いの共通理解を確立する。ただし、国内共同研究については、3研究班での研究もすすめる。そのうえで、研究ネットワーク構築など、3年間の研究交流の具体的なロード・マップの確認する。一年目の成果として Religious Dynamics in Africa を刊行する。					
	国内での交流 20人/35人日					
日本側参加者数 ②						
	21名	(13-1 日本側参加者リストを参照)				
(カメルーン) 国(地域)側参加者数						
	3(2名来日)名	(13-2 (カメルーン) 国側参加者リストを参照)				

(マリ) 国 (地域) 側参加者数	
2 名 (1 名来日)	(13-3 (マリ) 国側参加者リストを参照)
(タンザニア) 国 (地域) 側参加者数	
1 名	(13-4 (タンザニア) 国側参加者リストを参照)
(セネガル) 国 (地域) 側参加者数	
1 名 (日本側別予算)	(13-5 (セネガル) 国側参加者リストを参照)

10-2 セミナー

—実施するセミナーごとに作成してください。—

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) 日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業 伝統様式の崩壊と再宗教化をめぐる現代アフリカの宗教動態 (英文) JSPS AA Science Platform Program Religious Dynamics of Contemporary Africa concerning the destruction of Traditional Life Mode and New Religious Movement
開催時期	平成 21 年 9 月 15 日 ~ 平成 21 年 9 月 17 日 (3 日間)
開催地(国(地域)名、都市名、会場名)	(和文) 日本、名古屋、名古屋大学大学院文学研究科 (英文) Japan, Nagoya, Graduate School of letters Nagoya University
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 名古屋大学大学院文学研究科・教授・嶋田義仁 (英文) Graduate School of letters Nagoya University. Professor. Dr. Shimada Yoshihito
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外で開催の場合)	

参加者数

派遣先 派遣元	セミナー開催国(日本)	
	A.	B.
日本 〈人/人日〉		4/12
		17/51
カメルーン 〈人/人日〉		2/30
マリ 〈人/人日〉		1/9
セネガル 〈人/人日〉		1/3
タンザニア 〈人/人日〉		1/9

合計 〈人／人日〉	A.	
	B	8/60
	C	18/54

A.セミナー経費から負担

B.共同研究・研究者交流から負担

C.本事業経費から負担しない（参加研究者リストに記載されていない研究者は集計しないでください。）

<p>セミナー開催の目的</p>	<p>「伝統的生活様式の崩壊と再宗教化をめぐる現代アフリカにおける宗教動態」をめぐる国際共同研究の意義をあきらかにしつつ、アジア・アフリカ学術基盤形成事業が名古屋大学大学院文学研究科を拠点と開始されたことを内外に明らかにし、3年間の国際共同研究の方向性を定める。</p> <p>日本とアフリカのみならず、アフリカ間の研究者の交流対話の場を提供することによって、新たな研究交流の潮流をつくる。</p> <p>若手研究者を、最先端のアフリカ研究の流れのなかに巻き込む。</p>
<p>期待される成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> －「伝統的生活様式の崩壊と再宗教化をめぐる現代アフリカにおける宗教動態」を研究課題に、アジア・アフリカ学術基盤形成事業が名古屋大学大学院文学研究科を拠点と開始されたことが内外に明らかにされる。 －「伝統的生活様式の崩壊と再宗教化をめぐる現代アフリカにおける宗教動態」をめぐる国際共同研究の意義があきらかにされる。 －日本とアフリカのみならず、アフリカ間の研究者の交流対話による、新たな研究交流とあらたなアフリカ研究の潮流つくられる。 －若手研究者を、最先端のアフリカ研究の流れにみちびくことができる。

セミナーの運営組織		コーディネーター： 嶋田義仁 名古屋大学大学院文学研究科・教授 運営委員： 和崎春日 中部国際大学・国際関係学部・教授 佐々木重洋 名古屋大学大学院文学研究科・准教授 山田肖子 名古屋大学大学院文学研究科・准教授 事務局 松平勇二 名古屋大学大学院文学研究科博士課程 ウスマース・アダマ名古屋大学大学院文学研究科博士課程			
開催経費分担内容と概算額	日本側	内容	国内旅費	金額	20,000 円
			謝金		300,000 円
			備品・消耗品		50,000 円
			その他経費		50,000 円
			合計		420,000 円
	() 国 (地域) 側	内容		金額	
	() 国 (地域) 側	内容		金額	

10-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

① 相手国との交流

派遣先 派遣元	日本 〈人／人日〉	カメルーン 〈人／人日〉	マリ 〈人／人日〉	タンザニア 〈人／人日〉	計 〈人／人日〉
日本 〈人／人日〉					
カメルーン 〈人／人日〉					
マリ 〈人／人日〉					
タンザニア 〈人／人日〉					
合計 〈人／人日〉					
② 国内での交流 人／人日					

1 1. 平成 2 1 年度経費使用見込み額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費	500,000	国内旅費、外国旅費の合計は、研究交流経費の50%以上であること。
	外国旅費	3,330,000	
	謝金	600,000	
	備品・消耗品購入費	100,000	
	その他経費	300,000	
	外国旅費・謝金に係る消費税	170,000	
	計	5,000,000	研究交流経費配分額以内であること
委託手数料		500,000	研究交流経費の10%を上限とし、必要な額であること。 また、消費税額は内額とする。
合 計		5,500,000	

1 2. 四半期毎の経費使用見込み額及び交流計画

	経費使用見込み額 (円)	交流計画人数<人/人日>
第 1 四半期	100,000	5/5
第 2 四半期	2,840,000	10/64
第 3 四半期	1,660,000	6/44
第 4 四半期	400,000	5/10
合計	5,000,000	26/123